

平成 2 9 年度
健康に関する意識調査
報 告 書

平成 3 0 年 3 月

品

品川区

品川区

目 次

I. 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	3
II. 調査回答者の属性	5
①. 回収結果	6
②. 性別	6
③. 年齢	6
④－1. 身長	7
④－2. 体重	7
⑤. 肥満度分類	8
⑥. 職業	10
⑦. 家族構成	11
⑧. 世帯年収	11
⑨. 住所	11
III. 調査結果	15
(1) 健康状態について	16
(2) 健康の維持増進について	20
(3) 身体活動について	28
(4) 食生活について	36
(5) 心の健康について	50
(6) 歯と口の健康について	58
(7) 喫煙について	66
(8) 飲酒について	78
(9) 健康管理について	84
(10) 医療について	100
(11) 健康寿命について	110
(12) 地域活動について	114
IV. 調査票	121

I . 調 査 概 要

I. 調 査 概 要

1. 調査の目的

区民の健康づくりに関する意識調査を行うことで、今後の健康づくりに関する取り組みを検討するための基礎資料とする。

2. 調査項目

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) 健康状態について | (8) 飲酒について |
| (2) 健康の維持増進について | (9) 健康管理について |
| (3) 身体活動について | (10) 医療について |
| (4) 食生活について | (11) 健康寿命について |
| (5) 心の健康について | (12) 地域活動について |
| (6) 歯と口の健康について | (13) 回答者ご自身について |
| (7) 喫煙について | |

3. 調査設計

- | | | |
|------------|----|-------------------------|
| (1) 調査の対象者 | …… | 品川区在住の20歳以上の男女個人 |
| (2) 標本数 | …… | 3,000 サンプル |
| (3) 標本抽出方法 | …… | 住民基本台帳に基づく無作為抽出 |
| (4) 調査方法 | …… | 郵送法（郵送配布・郵送回収） |
| (5) 調査期間 | …… | 平成29年9月15日（金）～10月23日（月） |
| (6) 調査委託機関 | …… | 株式会社 総合企画 |

4. 回収結果

- | | |
|---------------|-----------|
| (1) 標 本 数 | : 3,000 票 |
| (2) 有 効 回 答 数 | : 1,243 票 |
| (3) 有 効 回 収 率 | : 41.4 % |

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 設問の回答数（基数）は、(n)で表示している。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答数を基数として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える場合がある。

(4) 標本を無作為に抽出した世論調査の統計数値には誤差があり、次の公式によって算出される。

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差 (単純無作為抽出の場合)

N = 母集団数

n = 比率算出の基数 (サンプル数)

P = 回答の比率

今回の実際の質問にあてはめてみると、「あなたの性別をお聞きます。」という質問に答えた人は1,243人 (=回答数) であり、そのうち、48.9% (=回答の比率) の人が男性と答えた。今回の調査対象となった20歳以上の品川区民の人口は330,715人 (※平成29年8月1日現在) であったので、それぞれの数値を公式に代入すると、次の誤差が算出される。

$$2\sqrt{\frac{330,715 - 1,243}{330,715 - 1} \times \frac{0.489(1 - 0.489)}{1,243}} \div 0.028$$

したがって、±2.8%が誤差の範囲となる。つまり、この回答に対する品川区民の真の値は、48.9%±2.8%=51.7%～46.1%の間と考えられる。

〈比率における誤差早見表〉

(N=330,715)

回答の比率 (P) 回答数 (n)	10% または90%	20% または80%	30% または70%	40% または60%	50%
1,243	1.7%	2.3%	2.6%	2.8%	2.8%
1,018	1.9%	2.5%	2.9%	3.1%	3.1%
960	1.9%	2.6%	3.0%	3.2%	3.2%
878	2.0%	2.7%	3.1%	3.3%	3.4%
751	2.2%	2.9%	3.3%	3.6%	3.6%
681	2.3%	3.1%	3.5%	3.8%	3.8%
492	2.7%	3.6%	4.1%	4.4%	4.5%
212	4.1%	5.5%	6.3%	6.7%	6.9%

(5) クロス集計で回答数(n)が30未満のものは、基数が少なく誤差が大きくなるため、一部を除き本文では触れていない。

(6) 分析において、割合を比較する際、その差をパーセント・ポイント (以下「ポイント」と表記) で表している。また、原則的に各項目間の値が誤差の範囲を超えて異なっている場合に言及している。

(7) 本文や図表中の選択肢・凡例の表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。